



# 増毛山道

商人が私財を投じて切り開いた貴重な歴史遺産の道

増毛山道は、日本海の海岸部の増毛郡増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ道路です。この山道は、江戸時代末期にロシアの南下政策に備え、当時、増毛の場所請負人の商人であった伊達林右衛門が松前藩の命を受け、自費で開削したもので、「北海道」の名付け親である松浦武四郎が調査で足を踏み入れた際に、「蝦夷地第一の出来映え」と評するほどの完成度だったと言われています。

その後、増毛山道は地域の重要な交易道路として利用され、駅通も設置されていましたが、交通網の整備が進むと、次第に山道の利用者が減り、昭和43年には地図からも消えてしまいました。

しかし近年、その歴史遺産としての価値が注目されるようになり、「NP0法人増毛山道の会」の活動によって復元作業が進められました。そして、平成28年に平地を除く32kmにわたる山道の全線が復元され、その歴史が甦りました。

北海道が蝦夷地と呼ばれていた頃に、アイヌの人たちが利用していた道、和人が交易のために利用した道、ロシアの南下に備え整備した道が道内各地にありましたが、時代とともに山道の役割は失われ、維持管理されないまま荒れて失われていきました。そのような中で、山道全線が現在に遺され、復元できた増毛山道は希少な山道であり、歴史的な価値は大きいのです。

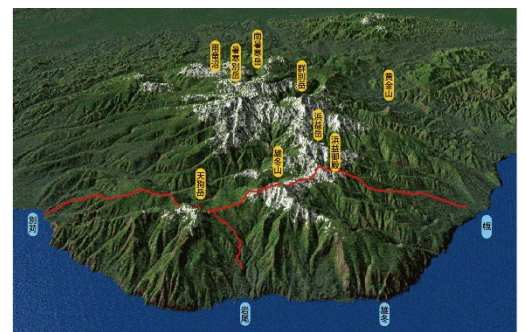
## 五感で感じる！ 風土資産の魅力



開削から160年の歳月を経て、その踏み跡も3mを越すクマザサの中に埋没し、この地に生活し道を辿った古老達の多くが亡くなり、増毛山道は記憶の彼方に消え去ろうとしていました。山道の全線復元により、往時の姿のまま現代に遺された貴重な歴史遺産に触れることができるようになりました。



「増毛山道の会」が収集した衛星利用測位システム (GPS) のデータを基に、平成29年に国土地理院電子地図へ増毛山道の位置情報が掲載されました。



増毛山道鳥瞰図

## 見どころ

平成28年に復元された増毛山道は、現在、一般開放はしていませんが、案内ガイドの同行により、夏期から秋期にかけて体験トレッキングを開催しています。体験トレッキングでは、山道に今も遺る電信柱や水準点などの歴史遺産を実際に見ることができます。

## ポイント

明治40年頃、増毛山道には17点の1等水準点が設置されていましたが、約160年を経て復元された山道に、そのうちの9点を発見することができました。北海道内に存在する約2,400点の1等水準点のうち、最も高い位置にあるのが、山道内の浜益御殿 (1,038m) 頂上付近にあるものです。

## ■基本情報 (R7.3)

文化財指定：北海道遺産 (増毛山道と濃曇山道～近代化に先駆した開拓遺産とその再生)  
指定年月日：平成30年11月2日  
所在地：増毛郡増毛町別荘～石狩市浜益区幌  
全長：38km  
復元完了日：平成28年10月16日